

学科名	ミュージックアーティスト科
コース名	サウンドクリエイターコース
授業科目	アドバンスレッスン2
必選	選
年次	2年次
実施時期	後期
種別	実習
時間数	120
単位数	4
担当教員	下條慧、田熊 知存、古峰拓真、川島基宏、杉山航平、須藤直也
実務経験	有
実務経験職種	ミュージシャン
授業概要	楽曲の基本とも言える4リズムセクションの打ち込みを体得することで、打ち込みの基本について学ぶ。基本は一人で作業することが多いので、そういった状況での問題を打破できる解決能力を養う。
到達目標	楽器の特徴や音色を把握し、楽曲制作に効果的に取り入れられるようになる。 音を聞いて楽器の名称がわかるようになる。
授業方法	弦楽器、管楽器、打楽器、鍵盤楽器、電気電子楽器の中から重要な楽器を取り上げ 形状、演奏映像を見ながら構造や演奏方法、音色、特徴を学習。 楽器によってはライブ演奏で実際の響きを体感する。
成績評価方法	学習した楽器のまとめを14、15回目にて授業内発表を行う。 これを60%(知識のほかに感想・思考・自分の作品にどう活かせるかを発表させて評価する) 授業後に提出するレポートや、主に学習に取り組む態度を評価し平常点40%とする。
履修上の注意	この科目は開講曜日により担当教員が異なります。専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方をもち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。
教科書・教材	授業内で使用する映像や動画。実演奏。

授業計画	
第1回	打楽器について（オーケストラ）
第2回	打楽器について（鍵盤打楽器）
第3回	打楽器について（ドラム）
第4回	打楽器について（膜鳴楽器と体鳴楽器）
第5回	打楽器についてまとめ （ドラムの記譜法を学習、オーケストラのスコアでの打楽器記譜法）
第6回	民族的な楽器について（ヨーロッパ）
第7回	民族的な楽器について（アフリカ、中近東）
第8回	民族的な楽器について（アジア、オセアニア）
第9回	民族的な楽器について（北中南米）
第10回	民族的な楽器について（その他）
第11回	民族的な楽器についてまとめ
第12回	電子楽器について（種類、歴史）
第13回	電子楽器について（種類、音色）
第14回	電子楽器について（種類、音色） これまでのまとめと発表。
第15回	後期のまとめと発表

学科名	ミュージックアーティスト科
コース名	サウンドクリエイターコース
授業科目	アドバンスレッスン2
必選	選
年次	2年次
実施時期	後期
種別	実習
時間数	120
単位数	4
担当教員	下條慧、田熊 知存、古峰拓真、川島基宏、杉山航平、須藤直也
実務経験	有
実務経験職種	ミュージシャン
授業概要	楽曲の基本とも言える4リズムセクションの打ち込みを体得することで、打ち込みの基本について学ぶ。基本は一人で作業することが多いので、そういった状況での問題を打破できる解決能力を養う。
到達目標	サウンドロゴやBGM、効果音を制作し、映像作品やゲーム等にも有効な作品制作技術を習得する。Rock、Pops、R&B、EDM、民族音楽、Jazz等様々な音楽ジャンル、国内外の名アレンジャーのサウンドスタイルについての知識を習得する。オーケストレーションに必要な基礎的な読譜力、記譜力、各使用楽器の音域や使用方法について学び、習得する。
授業方法	講師指定の楽曲を参考音源と楽譜をもとに様々なジャンルやアレンジャーのサウンドスタイルを分析する。同時に、ゲーム音楽、J-POP双方のオリジナル作品を作曲し、オーケストレーションの手法を用い仕上げていく。各種弦楽器、管楽器、打楽器以外にも、現代におけるシンセサイザーなどの編入楽器など、各学生のオリジナリティある組み合わせにも柔軟に対応していくものとする。課題の定期的な試聴会とディスカッションも行う
成績評価方法	14回目または15回目にて授業内発表を行い、その巧拙を判定する。 60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、 授業後に提出するレポートによる平常点40%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)
履修上の注意	この科目は開講曜日により担当教員が異なります。専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方をもち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。
教科書・教材	適時、講師より教材を配布する。

授業計画	
第1回	課題曲1 楽曲制作の方法と解説・録音・制作実習
第2回	課題曲1 楽曲制作の方法と解説・録音・制作実習
第3回	課題曲1 楽曲制作の方法と解説・録音・制作実習
第4回	課題曲1 楽曲制作の方法と解説・録音・制作実習
第5回	課題曲1 楽曲制作の方法と解説・録音・制作実習
第6回	課題曲1 楽曲制作の方法と解説・録音・制作実習
第7回	課題曲1 楽曲制作の方法と解説・録音・制作実習
第8回	課題曲2 楽曲制作の方法と解説・録音・制作実習
第9回	課題曲2 楽曲制作の方法と解説・録音・制作実習
第10回	課題曲2 楽曲制作の方法と解説・録音・制作実習
第11回	課題曲2 楽曲制作の方法と解説・録音・制作実習
第12回	課題曲2 楽曲制作の方法と解説・録音・制作実習
第13回	課題曲2 楽曲制作の方法と解説・録音・制作実習
第14回	課題曲2 楽曲制作の方法と解説・録音・制作実習
第15回	後期のまとめ

学科名	ミュージックアーティスト科
コース名	サウンドクリエイターコース
授業科目	アドバンスレッスン2
必選	選
年次	2年次
実施時期	後期
種別	実習
時間数	120
単位数	4
担当教員	下條慧、田熊 知存、古峰拓真、川島基宏、杉山航平、須藤直也
実務経験	有
実務経験職種	ミュージシャン
授業概要	楽曲の基本とも言える４リズムセクションの打ち込みを体得することで、打ち込みの基本について学ぶ。基本は一人で作業することが多いので、そういった状況での問題を打破できる解決能力を養う。
到達目標	実社会とやりとりが発生するために、別途開催されているビジネス関連授業で学んだ知見を本授業内で活かしているか講師による確認を適時行う。 そのうえで、外部コンテストの内容または外部からの依頼に基づくうえでの様々な音楽ジャンルを都度リサーチし、制作するテーマに基づくサウンドの方向性を再現できる技術を習得する。
授業方法	社会上の概念に触れるため、想定できないことがあることにも随時対応できるよう、回復可能な失敗の機会を得ることを恐れないマインドと技術手法を得る。回復可能な失敗についてその原因を探り、講師がメンターとなって実務経験者の観点から、技術手法に関する都度のアドバイス、または締切までに楽曲を仕上げるプレッシャーについてのメンタリングも実施し、授業内が新人作家によるプロダクション企業を想定し、各学生の状況に個別最適化された授業を実施する。
成績評価方法	提出物課題80%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する) 平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)
履修上の注意	この科目は開講曜日により担当教員が異なります。専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方をもち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の４分の３以上出席しない者は定期試験を受験することができない。教室使用後は使用した周辺の消毒清掃を各自行う。
教科書・教材	適時、講師より教材を配布する。 ヘッドホン、6.3mmステレオ標準変換アダプター、SSDやUSBメモリ等の記録媒体を持参すること。 また自身のPCを持ち込むことも可。

授業計画	
第1回	テーマに沿った楽曲イメージを調査しまとめる。 データの管理方法の再確認。
第2回	楽曲制作01：必要な楽器の選別やジャンル、リズムやテンポといった楽曲の大まかな雰囲気イメージする。 大まかな楽曲の全体像の把握、セクションをイメージする。楽曲の骨組みを考える。
第3回	楽曲制作02：リズムパート（ドラムやベース）パターンをリファレンスし、再現したりアレンジして各自の楽曲に反映させる。
第4回	楽曲制作03：曲の基本となるモチーフを考え、シンプルでわかりやすいフレーズを考える。音色も考慮する。
第5回	楽曲制作04：ウワモノの入力。楽曲のキーやコード進行を考え入力する。 なお、各々の作曲方法により02～03は順不同となる。
第6回	楽曲制作05：制作を継続。全体のバランスを考えながら楽器の配置や演出を考える。
第7回	楽曲制作06：制作を継続。全体のバランスを考えながら楽器の配置や演出を考える。
第8回	中間確認。この段階でラフなデモ音源が完成できるよう制作を進める。書き出し音量とファイル形式について。 Google classroomでの提出方法。
第9回	楽曲制作07：各楽器パートのブラッシュアップを行う。楽曲イメージに合わせた楽器の演奏方法を模索する。
第10回	楽曲制作08：制作を継続。各楽器のパニングを再確認する。空間系エフェクトを使用し臨場感を表現する。／空間系FXの詳細、リバースとディレイ。
第11回	楽曲制作09：ミキシング。リズム隊の音量バランスを考える。リファレンス検索。／グルーブトラックとルーティングについて。
第12回	楽曲制作10：ミキシング。リズム隊に対するメインパートの音量バランス。またウワモノのバランスを考える。／コンプレッサー、サイドチェーンについて。
第13回	楽曲制作11：ミキシング。リファレンスと比較し全体調整を行う。／VCAとは。
第14回	楽曲制作12：ミキシング。最終工程を行う。書き出し形式やファイル名について。／リミッター、マスターエフェクトについて。
第15回	楽曲提出。授業内発表とプレゼンテーション、後期のまとめ。

学科名	ミュージックアーティスト科
コース名	サウンドクリエイターコース
授業科目	アドバンスレッスン2
必選	選
年次	2年次
実施時期	後期
種別	実習
時間数	120
単位数	4
担当教員	下條慧、田熊 知存、古峰拓真、川島基宏、杉山航平、須藤直也
実務経験	有
実務経験職種	ミュージシャン
授業概要	楽曲の基本とも言える4リズムセクションの打ち込みを体得することで、打ち込みの基本について学ぶ。基本は一人で作業することが多いので、そういった状況での問題を打破できる解決能力を養う。
到達目標	サウンドロゴやBGM、効果音を制作し、映像作品やゲーム等にも有効な作品制作技術を習得する。クラシックだけではなく、Rock、Pops、R&B、EDM、民族音楽、Jazz等様々な音楽ジャンル、国内外の名アレンジャーのサウンドスタイルについての知識を習得する。オーケストレーションに必要な基礎的な読譜力、記譜力、各使用楽器の音域や使用方法について学び、習得する。
授業方法	学生各自がDAWを使用し、各ジャンルを再現しながらの楽曲制作、または編曲を行う。適宜配布されるMIDIデータ等を参考にし、アレンジ作業、音色選択とエディットを行う。定期的に課題提出とそれに対するアドバイスをし、理解度を確認する。適宜、音楽知識、制作技術、その他弱点補強の授業も行う。
成績評価方法	提出物課題80%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する) 平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)
履修上の注意	この科目は開講曜日により担当教員が異なります。専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方をもち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。
教科書・教材	教科書:オーケストレーション(宅美秀俊)・音楽理論ワークブック 毎回レジュメ・資料を配布する。 参考書・参考資料等は、授業中に指示する。 各自、筆記用具やノートと共に持参すること。

授業計画	
第1回	アレンジの構想を組み立てることができる。
第2回	テーマ部分にリハーモナイズを行い新たなコードを設定できる。
第3回	室内オーケストラ+ピアノ編成のアレンジができる。その1
第4回	室内オーケストラ+ピアノ編成のアレンジができる。その2
第5回	室内オーケストラ+ピアノ編成用のアレンジができる。その3
第6回	前奏と間奏部分のアレンジができる。
第7回	2コーラス目のアレンジができる。
第8回	後奏部分のアレンジができる。
第9回	カノン進行を4パートの弦楽器セクションに展開できる。
第10回	カノン進行を5パートの弦楽器セクションに展開できる。
第11回	カノン進行に木管楽器&金管楽器パートを追加できる。
第12回	カノン進行+後奏にトゥッティによるボレロ風アレンジを施す
第13回	自作曲または好きな既成曲のオーケストレーションができる。(1)
第14回	自作曲または好きな既成曲のオーケストレーションができる。(2)
第15回	全体のまとめ